

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.97

2007/12/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

北部湿原の復元作業更に前進・・・

最後の「保全活動日」の北部湿原（07/12/15）

今年の初雪は 11 月 20 日と早く、例年紅葉が最盛期の時期とぶつかりました。そのため林内を明るくするシロモジが黄葉前に縮れてしまうものもあり、結果として紅葉を楽しめる期間が短くなりました。にもかかわらず 12 月 3 日まで来訪団体が続きました。

早い初雪で根雪までの保全作業のかき入れ時の期間が少なくなるのではと心配されました。が初積雪は 12 月 5 日とほぼ例年通りでしたが、数日で融け 15 日の保



刈り払い材の移動作業（07/12/15）



北部湿原の灌木の除伐（07/12/08）

全作業も予定通り実施でき大きな成果をあげることができました。当日は、新入会員も参加していただき久々に大勢で作業することが出来、刈り払いの済んだ約半分の整理が完了しました。この作業を実施するため事前に、刈り払いでは行えなかった木の除伐作業も少数の会員で実施しました。右の画像は、そのうちの 1 本のアカマツの切り株で、年輪は 35 とカウントされました。1968 年に北部湿原の一部が人工改変された経緯と合致します。作業終了後観察コースから見た「北部湿原灌木帯」は、完全に湿原の様相となっており復元作業の成果を確かめました。勿論未だ刈り払いは済んだものの整理が終わっていない部分も残っており、更に刈り払いがこれからという部分も相当の面積があります。その作業は、今後も断続的に進めて行きたいと考えています。中央・北部湿原間の刈り払い作業も進行しており、この部分も湿原の復元がかなり進行しています。



除伐したアカマツの切り株（07/12/08）



中央 - 北部湿原間の広がった湿原 (07/12/17)

12月5日の積雪量は、湿原で18cmと少なかったものの湿潤な雪質のため木々はかなり湾曲した状態となった。観察コースでは、落枝や倒木で通行が難しい箇所も出来るほどであった。



湿潤な積雪の北部湿原 (07/12/05)

例年になく沢山実を付けたミヤマウメモドキも例外なく枝が撓み一時に落下するのではないかと危ぶまれたが、翌日には落下はあったもののそれほど悲惨なことにはならず済みしました。



積雪で池塘分布が鮮やかな南部湿原 (07/12/05)



豊作のミヤマウメモドキも積雪の重みで (07/12/05)

森の雪の状態の観察は、新雪が降り止んだ直後が最も美しい。なかなかそのタイミングを計るのが大変なのだが・・・。降り止みから徐々に融雪が進むにつれ加重が取り除かれる過程の植



木々の積雪が殆ど無くなった南部湿原 (07/12/06)

物の状態を観るのも冬の観察のおもしろさである。積雪期のもう1つの観察テーマは、やっぱり



イノシシの足跡 (07/12/06)

動物の足跡である。今回の積雪でもシカ・イノシシ・タヌキ・ノウサギの鮮明な足跡が観察できました。



加重が開放されるミヤマウメモドキ (07/12/06)